
鋸南町総合計画後期基本計画及び鋸南町デジタル田園都市国家構想総合戦略策定支援業務

町民ワークショップ報告書

令和7年8月

鋸 南 町

目 次

I. ワークショップ実施概要	5
1.開催目的	6
2.会議概要	6
3.参加者	6
II.ワークショップの実施結果	7
1.第 1 回ワークショップ.....	8
(1) プログラム	8
(2) 本日のゴール	8
(3) ワークショップの進め方	8
(4) ワークショップのルール	9
(5) ワークショップの検討結果.....	10
2.第 2 回ワークショップ.....	18
(1) プログラム	18
(2) 本日のゴール	18
(3) ワークショップの進め方	18
(4) ワークショップのルール（再掲）	19
(5) ワークショップの検討結果.....	20
3.第 3 回ワークショップ.....	25
(1) プログラム	25
(2) 本日のゴール	25
(3) ワークショップの進め方	25
(4) ワークショップのルール（再掲）	26
(5) ワークショップの検討結果.....	27

I. ワークショップ実施概要

1. 開催目的

町民によるワークショップを開催し、まちの将来イメージや今後のまちづくりの方策を取りまとめ、後期基本計画策定の参考とする。

2. 会議概要

開催日	第1回 令和7年6月22日(日) 第2回 令和7年7月19日(土) 第3回 令和7年8月9日(土)
開催時間	各回とも 10時～12時
会場	鋸南町立中央公民館 視聴覚室
参加者	町広報紙にて募集した 15 歳以上の町民
会議のテーマ	1.まちの将来イメージについて（第1回） 2.今後のまちづくりの課題、求められる取組について（第2回、第3回）
会議の形式	ワークショップ

3. 参加者

第1回	A チーム	4人（男性2人、女性2人）
	B チーム	4人（男性3人、女性1人）
第2回	観光チーム	5人（男性2人、女性3人）
	定住促進チーム	5人（男性4人、女性1人）
第3回	観光チーム	4人（男性1人、女性3人）
	定住促進チーム	5人（男性4人、女性1人）

II.ワークショップの実施結果

1. 第 1 回ワークショップ

(1) プログラム

- ①開会・あいさつ
- ②事務局紹介
- ③参加者自己紹介
- ④ワークショップの進め方の説明
- ⑤ワーキング（個人ワーク：20 分 → グループワーク：35 分）
- ⑥発表（各グループ 5 分以内）
- ⑦次回の予定・閉会

(2) 本日のゴール

2040 年頃に、「鋸南町がこうなったら良い」という将来イメージを、
各自が具体的に考えて、他の参加者と共有する

(3) ワークショップの進め方

① 個人ワーク

- ① 2040 年頃に、鋸南町がこうなったら良いという将来イメージを、思い浮かべる
- ② 写真の中から、①の将来イメージに近いものを選び、「まちの将来イメージ検討カード」（以下「カード」）に貼り付ける
- ③ カードに将来イメージを説明する文章を記入する
 - ・「誰が」「いつ」「どこで」「何をしている・どうなっている」の形式で
 - ・「補足説明」欄も記入
 - ・カードは 1 人 2 枚以上作成



(誰が)

シニア世代とその子ども世代 が、

(いつ)

日頃から 。

(どこで)

保田地区の近所にあるお互いの家を行き来して 。

(何をしている・どうなっている)

子育てや介護を手伝い合いながら 。

楽しく暮らしている 。

[補足説明]

・働く場所が町内にあり、かつ、町の子育て支援策が充実しているため、子ども世代は夫婦とも仕事をもち、ゆとりのある生活を送れている。

・シニア世代は町のダイサービスを利用しながら健康を維持できている。

② グループワーク

- ① 1 人につき、カードを 1 枚ずつ、最も発表したいものから順に「誰が」「いつ」「どこで」「何をしている・どうなっている」「補足説明」を発表し、模造紙に貼り付ける
- ② 前の人が貼り付けたカードと、同じ分野や類似した意見のカードは近くに貼り付ける（これを 2 回転以上行う）
- ③ 各自の発表・カード貼り付け作業は終了
- ④ 同じ分野のカードについて、太マジックで囲み、それぞれにタイトルを付ける
 - ・タイトルには、原則として「分野」がわかる言葉に加え「アピールポイント」を入れる
 - ・時間がなければ分野名（「子育て」、「観光」、「仕事」等）のみでもよい

例 1 「みんながつながる子育て」

例 2 「観光振興～住民も参加して旅行者をおもてなし」

例 3 「働く場が増えて、人口減少が止まっている」

模造紙の完成イメージ【本日のゴール】



(4) ワークショップのルール

- ① カードや模造紙等の記入は読みやすい字で
ほかの人がわかるように、カードや付せん、模造紙は読みやすい大きな字で書きましょう！
- ② 「質」より「量」
作成するカードや付せんは、1 つずつ時間をかけて吟味するよりも、「量（数）」を増やしましょう！
- ③ どんどん便乗
ほかの人の意見にはどんどん便乗して、発想を広げましょう！ 意見が重なっても OK！
- ④ 質問しても否定はしない
わからないことは発案者に質問しましょう！
ただし、考えを否定するのは NG。お互いの意見を尊重しましょう！
- ⑤ 話し過ぎない
1 人の人が話し過ぎないようにしましょう！

(5) ワークショップの検討結果

① Aグループ



Aグループ-①

災害		
誰が	ボランティアゆんぼ隊	
いつ	要請があった時	
どこで	道や災害被害のあった場所	
何をしている どうなっている	道路の保全、土砂の除去	
誰が	移住者、希望者	
いつ	日頃	
どこで	復活した防空壕	
何をしている どうなっている	クラフトビール、飲食店、宿泊	

Aグループ-②

誇り・安心安全		
誰が	誰も	
いつ		
どこで	鋸南町	
何をしている どうなっている	住むことを誇りに思う町へ	
誰が	若い人たち	
いつ	四季を通して	
どこで	自然の中	
何をしている どうなっている	休日の充実	
誰が	誰も	
いつ	毎日	
どこで	どこでも	
何をしている どうなっている	ワクワクする社会へ	
誰が	全町民	
いつ	日頃から	
どこで	家庭・地区・学校等	
何をしている どうなっている	伝統・文化（祭礼行事）を維持継承し守る	
誰が	誰も	
いつ	いつも	
どこで	生活圏内	
何をしている どうなっている	安心して暮らせる社会へ	

Aグループ-③

移動・買い物		
誰が	お年寄り	
いつ	いつでも	
どこで	自宅で暮らし	
何をしている どうなっている	買い物等行きたい所に行ける	
誰が	全町民	 
いつ	日頃から	
どこで	コンパクトシティ（タウン）として整った場	
何をしている どうなっている	自助・共助を持って協力しながら便利に楽しく暮らす	

Aグループ-④

エネルギー		
誰が	観光客や子ども達	
いつ	日頃	
どこで	かわいい風車や水車のあるところ	
何をしている どうなっている	電気を使わない粃すり、粉引き体験	

Aグループ-⑤

食		
誰が	子ども、ヤングアダルト、シニアのみんな	
いつ	日頃から都合のよいとき	
どこで	耕作放棄地を復活した田畑	
何をしている どうなっている	農薬肥料を使わない元気でおいしく安全なお米や野菜を育て町で売ったり自家消費している	
誰が	農家の方々（&漁業）	
いつ	通年	
どこで	町内の田畑	
何をしている どうなっている	町民向け野菜で地産地消	
誰が	町のボランティア（老若男女）	
いつ	都合の良い時	
どこで	里山や空き地	
何をしている どうなっている	食べられる森（ブルーベリー、リンゴ等食用植物）をつくっている	

Aグループ-⑥

エネルギー／食		
誰が	狙った移住者、希望者	
いつ	日頃	
どこで	自分の住居のそば、移住地	
何をしている どうなっている	酪農をして安全でおいしい乳製品	

A グループの検討状況・発表



② Bグループ



Bグループ-①

まちづくり		
誰が	町民（特に高齢者）	
いつ	日頃から	
どこで	買い物に困らない商店街	
何をしている どうなっている	楽しく会話しながら生活していく町	
誰が	町民だれでも	
いつ	好きな時に	
どこで	-	
何をしている どうなっている	スーパーでの買い物ができている状態	
誰が	高齢者、通学・通勤	
いつ	朝・昼・夕（1日中）	
どこで	公道	
何をしている どうなっている	バス、タクシー、デマンド、マイカー、JR、社協などニーズに応じて自由に活用できている状態	
誰が	町の多くのみなさん	
いつ	日頃から	
どこで	ある程度まとまった居住地邦夫中で	
何をしている どうなっている	コミュニティ自給（インフラ・食料・エネルギーなど）している	
誰が	山間部の住民	
いつ	災害時	
どこで	土砂崩れ、河川氾濫	
何をしている どうなっている	避難できる場所	

Bグループ-②

文化・自然を守る・育む		
誰が	町民	
いつ	春・夏・秋などの行事に参加したとき	
どこで	-	
何をしている どうなっている	その文化的背景に興味を持ち、自然との向き合い方などに誇りを持つようになる	
誰が	町の多くのみなさん	
いつ	日頃から	
どこで	里山・海を中心とした自然多い場所	
何をしている どうなっている	手入れやそうじを積極的に楽しんでやっている	

Bグループ-③

新しい意見を取り入れる文化・マインド		
誰が	町の大人	
いつ	10代や子育て中の方の発言を	
どこで	-	
何をしている どうなっている	ちゃんと具現化するために動いている	

Bグループ-④

移住者の増加		
誰が	子育て世代	
いつ	現状に不安・ストレスを感じたとき	
どこで	東京・神奈川の自宅で	
何をしている どうなっている	移住先の有力候補として鋸南を考えている	
誰が	町民・移住者	
いつ	7月～10月	
どこで	各地区（勝山・保田・佐久間）	
何をしている どうなっている	住んでいる地域コミュニティに触れながら楽しく参加する	
誰が	観光に訪れる人	
いつ	住民の暮らしに触れ	
どこで	町で	
何をしている どうなっている	非日常を見るのではなく、日々の暮らしの参考にしようと思うようになる	

Bグループ-⑤

雇用創出		
誰が	町民・移住者・観光客	
いつ	通年	
どこで	保田小学校（交流施設）	
何をしている どうなっている	起業～雇用～人口増加につながれば	
誰が	農業従事者	
いつ	-	
どこで	耕作放棄地含め農地	
何をしている どうなっている	集約土地で、中規模農業経営できる	

B グループの検討状況・発表



2. 第2回ワークショップ

(1) プログラム

- ①開会・あいさつ
- ②「地方自治体の総合計画とは」、「鋸南町の現状」
- ③ワークショップの進め方の説明
- ④ワーキング（個人ワーク：20分 → グループワーク：30分）
- ⑤発表（各グループ5分以内）
- ⑥次回の予定・閉会

(2) 本日のゴール

総合計画における鋸南町の将来像の実現に向けた

「今後のまちづくりの課題」を分野別にまとめ、他の参加者と共有する

(3) ワークショップの進め方

① 個人ワーク

- ①鋸南町の「A 良いところや魅力」と「B 問題点や弱み」を付せんに記入する
※付せんの色は、A：ピンク、B：水色
※A、Bとも、チーム名にこだわらず、すべての分野について検討し、付せんに記入

② グループワーク

- ①1人につき、付せんを3枚ずつ、最も発表したいものから順に読み上げ、模造紙に貼り付ける
- ②前の人が貼り付けた付せんと、同じ分野や類似した意見の付せんは近くに貼り付ける
※これを時間がくるまで繰り返す
- ③他のメンバーの意見を聞いて、新たに思いついたことを随時付せんに記入して自分の番で発表してもよい
- ④各自の発表・付せん貼り付け作業は終了
- ⑤手元に残った付せんは、同じ分野や類似した意見の付せんの近くに各自で貼り付ける
- ⑥同じ分野の付せんについて、太マジックで囲み、それぞれに「今後のまちづくりの課題」を記入する
※下記例のような形式とし、文章にはしない

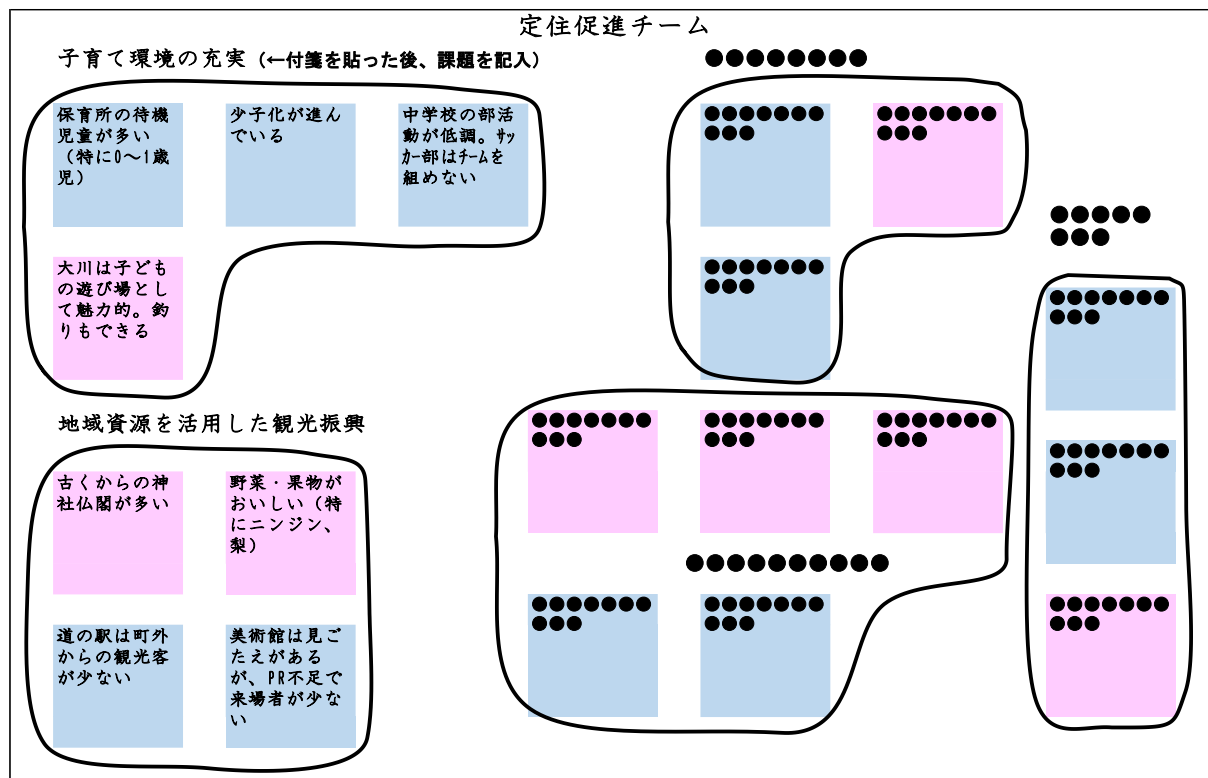
例 1「●●の充実」

例 2「●●を生かした●●」

例 3「●●に向けた●●の強化」

例 4「●●の●●によるまちづくり」

模造紙の完成イメージ



(4) ワークショップのルール（再掲）

①カードや模造紙等の記入は読みやすい字で

ほかの人がわかるように、カードや付せん、模造紙は読みやすい大きな字で書きましょう！

②「質」より「量」

作成するカードや付せんは、1つずつ時間をかけて吟味するよりも、「量（数）」を増やしましょう！

③どんどん便乗

ほかの人の意見にはどんどん便乗して、発想を広げましょう！ 意見が重なっても OK！

④質問しても否定はしない

わからないことは発案者に質問しましょう！

ただし、考えを否定するのは NG。お互いの意見を尊重しましょう！

⑤話し過ぎない

1人の人が話し過ぎないようにしましょう！

(5) ワークショップの検討結果

① 観光チーム

課題	A 良いところや魅力	B 問題点や弱み
観光振興	観光客の数がほどよい	魚（おいしい）があるのに特色がない。おいしいお店を聞かれてもあまり答えられない
	マストツーリズムや観光公害が少ないこと	地域独特の手作り料理があって欲しい
	都心部からのアクセス	国道特に鋸山の海沿いの歩道整備が進んでいない
	東京から近い	つり場などの整備
	鋸山がある。有名	水仙ロード。駅～ロード間のルート改善
	水仙ロード。水仙の町	海沿いが私物化（一企業独占化？）
	鋸山の鋸南川は歴史の宝庫だ！金谷ばかりが観光地化では？	特定企業が富裕層ターゲットに。町民への恩恵が感じられない
	誇れる文化や魅力多数	保田駅前通りが寂しすぎる！
	見返り美人	保田小～保田川沿いの桜コースを考えて
		保田川の桜の開花時期の伝え方（観光客）
		宣伝力が弱い
		町外の行政の情報収集など
人・コミュニティ		保田小を利用する人が町外からの観光客ばかり？のイメージ。地元ではあまり好評価聞かず
	人が少ない	人口が少ない
	組合の活動が活発（機能している）	人口の高齢化（次世代への農業・自然／里山管理の継承）
	行政身近さ	世代交代の進行
	人のつながり（顔の見える距離感）	まちづくりの町民への関わり度
	町民の人柄	団結力の強化
	移住者受け入れ	地域の人的資源の活用
		先住民（？）と移住者との交流があってほしい
		外部からの人と地元民とのかかわり
		排他性が強い
自然環境		若者・高齢者分断
	海がある	海のゴミ。放置by観光客。海洋ゴミ
	山がある	佐久間ダムを活用（年間）。もつと賑わいを
	川がある	キョンが多い。イノシシも民家の近くに出現
	海があり富士山も見える	山が荒れている
	自然環境	
	海と山が近い	
	海と山の近さ	
	つり、魚が美味しい	
	佐久間ダム。とても季節的には良い（花とダム（水））	
	野生動物がいる	
	農地が沢山	

課題	A 良いところや魅力	B 問題点や弱み
農業		農業ゴミの流出
		農業用地が活かされていない
仕事・雇用		就業の場所がない
		仕事・雇用（収入源）
行政	住める状態の空き家が多い	車を持たない人にとっての交通手段が不便
		町の未来の明確なビジョンがない!!
		海辺・海岸の無秩序な開発
		貸別荘の開発のルールetc（財政）



② 定住促進チーム

課題	A 良いところや魅力	B 問題点や弱み
子育て・教育	保・幼・少・中教育の充実（給食費）	就学前幼児への支援（医療費等以外）
担い手不足		人口減少による担い手不足（消防団・祭礼他）
交通利便性	オンデマンド交通検討中（町営バスに変えて）	移動手段の確保・選択の提供
	鋸南全域を車で1日あれば廻ることができる（適度な観光）	公共交通が脆弱（高齢者対応不足）
	適度に都内に地絡、日帰りが可能	都心部への交通手段が不安定（気候等）
	都心から1時間の近さ	
発信	メディアに取り上げられるようになってきている（保田小・映画撮影）	発信力（魅力・メリット）の弱さ
福祉	社会福祉協議会活動での支援	権利弱者への支援（申請できない）
環境・自然	綺麗な海と山がある	河川が洪水に弱い（普段の整備弱い）
	空や海がまだ美しい	
	自然を身近に感じながら暮らせる環境	
	形式が綺麗（鋸山・海岸他）	
仕事		産業（仕事）の少なさ
		各業界（農・商工・水産）との交流不足。特に次世代！
		創業支援の充実。他地域より遅れている
暮らし	密集しない暮らしが選べる	賃貸住宅がほぼ無く、不動産が全体的に高いことに対応していないように見える
	海岸地区と山間部で生活様式が異なり面白い	
観光		観光ルートが明確でない（自転車で廻る）
文化	祭礼が各地であり、文化伝統に触れる機会が多い	
食	食材が豊富（農作物・魚類）	
	美味しい食材（魚・野菜）が豊富	
住民意識	親切な人が多い	学生・若者・子育て中の方などの声が弱い。高齢者が多いので、はじめから不公平
		ゴミ拾いはおろか、ゴミを出さないように、ゴミにしないようにという考えが弱い。すぐペットボトルが出てくる。
		排他性の強さ
		危機感の薄さ



A 観光チームの検討状況・発表



B 定住促進チームの検討状況・発表



3. 第 3 回ワークショップ

(1) プログラム

- ①開会・あいさつ
- ②全国のまちづくりの先進事例他
- ③ワークショップの進め方の説明
- ④個人ワーク：25 分
- ⑤グループワーク：25 分
- ⑥発表（各グループ 5 分以内）
- ⑦あいさつ・閉会

(2) 本日のゴール

鋸南町の「今後のまちづくりにおける課題」を解決するために
求められる取組を、各自が具体的に考え、他の参加者と共有する

(3) ワークショップの進め方

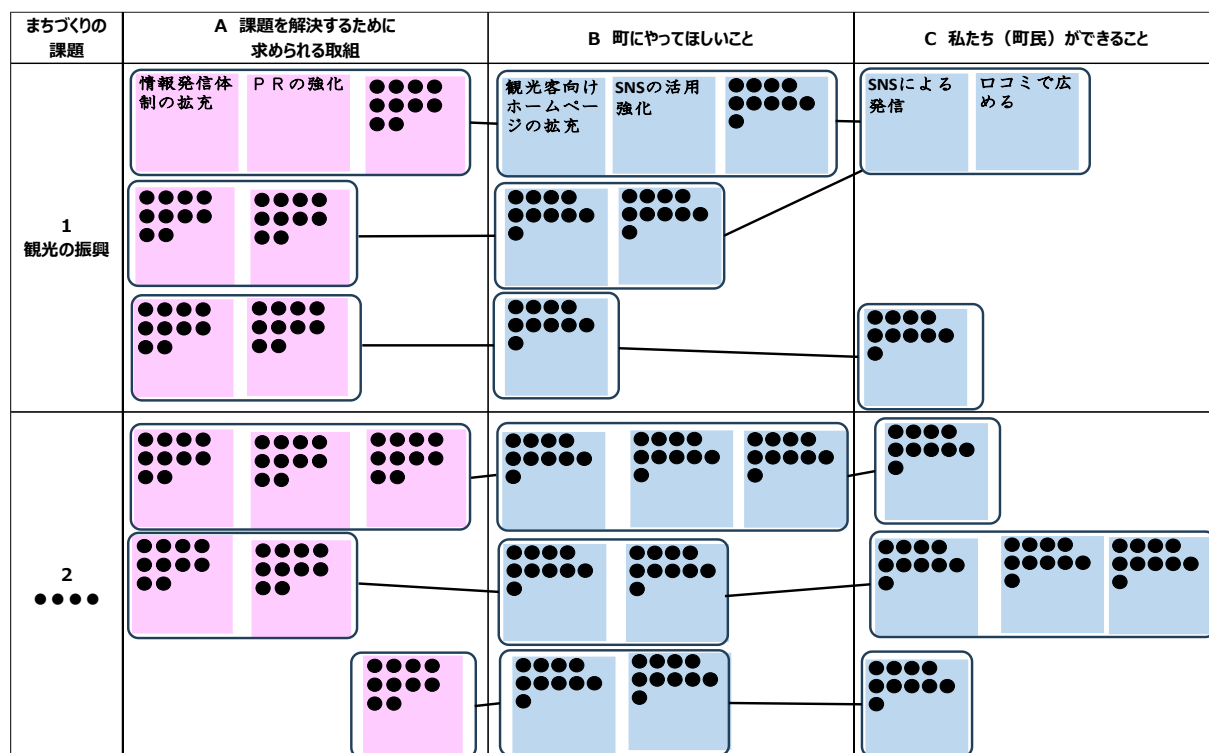
① 個人ワーク

- ①課題 1 について、「A 課題を解決するために求められる取組」（付せんの色：ピンク）、そのために「B 町にやってほしいこと」（付せんの色：水色）と「C 私たち（町民）ができること」（付せんの色：水色）を付せんに記入

② グループワーク

- ①1 人につき、付せんを 1 セット（A-B-C）ずつ、最も発表したいものから順に読み上げ、模造紙に貼り付ける
- ②前の人が貼り付けた付せんと、類似した意見の付せんは近くに貼り付ける
※これを時間がくるまで繰り返す
- ③他のメンバーの意見を聞いて、新たに思いついたことを随時付せんに記入して自分の番で発表してもよい
- ④各自の発表・付せん貼り付け作業は終了
- ⑤手元に残った付せんは、同じ分野や類似した意見の付せんの近くに各自で貼り付ける
- ⑥類似した意見の付せんを太マジックで囲んだ上で、関連する A、B、C を線でつなぐ
（課題 2 も同様に実施）

模造紙の完成イメージ【本日のゴール】



(4) ワークショップのルール（再掲）

①カードや模造紙等の記入は読みやすい字で

ほかの人がわかるように、カードや付せん、模造紙は読みやすい大きな字で書きましょう！

②「質」より「量」

作成するカードや付せんは、1 つずつ時間をかけて吟味するよりも、「量（数）」を増やしましょう！

③どんどん便乗

ほかの人の意見にはどんどん便乗して、発想を広げましょう！ 意見が重なっても OK！

④質問しても否定はしない

わからないことは発案者に質問しましょう！

ただし、考えを否定するのは NG。お互いの意見を尊重しましょう！

⑤話し過ぎない

1 人の人が話し過ぎないようにしましょう！

(5) ワークショップの検討結果

① 観光チーム

(注) 観光チームでは、「A 課題を解決するために求められる取組」、「B 町にやってほしいこと」、「C 私たち(町民)ができること」は必ずしも 1 対 1 の関係ではないと考え、A-B-C をセットにした整理はしていない。

A 課題（問題点や弱み）を解決するために求められる取組	
天然資源の再生・保全の取組み（里海山川＝解散資源、食料、観光）	観光客と住民と一緒に活動できるイベント
農業・漁業の共同企画	住民と観光客との交流促進
おいしいお店がない→各店で1点でもお薦めを考える（グルメブーム）	保田小～観光客、町外が圧倒的。町民の存在が薄いのは宣伝方法に問題あり。又は、町民が求めているものがない？のか分析が必要
河川の美化整備	道の駅保田小。地元の特産物が少ない
釣り場などの整備。海岸での釣り、遊ぶ人、いろいろな人がいるが、竜島のように保田にもほしい	水仙ロード。季節的なこともあるがにぎわいを求める
町民の想い、声、アイデアを町づくりに反映し、それが町民に実感・納得できるプロセスと仕組づくり	宣伝力が弱い。何か 1 つ抜けている
鋸南町のコンセプトがほしい	保田川の桜開花時期。保田川の桜の開花を実際に見に来てほしい
少子化前提、観光のあり方を明確化	観光案内所の機能強化
	観光の高付加価値化
	ふるさと納税、観光関係

B 町にやってほしいこと		
漁業に関する当事者との連携、海産資源の再生保全の取組みのイニシアティブをとる（働きかけと巻き込み）	観光業の専門家採用	川に稚魚が生息していること。釣り客見込まれる。魚道造る
（林業）山・川・農地についても同様。生態系の全体性を考えた統合的な取組みのコーディネート	ガイド養成	川をきれいにする。雨後の濁りがひどいのは上流の採石場か？だとすれば砕石の長期化を何とかして欲しい
与えられた枠組みを超えた自由な発想・起業家マインドの醸成・奨励	案内所の人材育成	個人では出来ないの行政で整備を
勉強会を企画（町民だったら参加できる）	案内所の充実化	
企画化	情報発信	
企画	実際に桜が開花していないことが多い	
ワークショップ開催複数	保田小〜イベントの町内周知、当日の放送で促進を	
風通しの良いフラットに発信できる町役場の文化づくり	インパクトがあり簡単な言葉で賑わい、販売などをうながす	
ルール強化	町づくりのプロセスの情報の透明性の向上（発信＋わかりやすさ）	
各店と行政が協力	富裕層誘致	
観光事業起業支援	案内所再編	
人材育成、地域おこし協力隊採用		

C 私たち（町民）ができること

協力

漁業・農業などの従事者としての知見の提供 （古くからの人も新規の人も同様に）。天然 資源の再生保全に関する情報・知見・アイデア や実行力の提供。（具体例）シェア畑、ジビエ の管理、地域おこし。その他の人たち	町民による魅力発信
	素材提供
住民（業者）受け入れ	町民レベルでの環境問題への学習・関心高め る努力不可欠
町民と町が協力する	住民の観光に対する意識調査
販売的な町民の参加	住民の観光意識の明確化
ワークショップ積極的な参加	アイデアやボランティアとしての行動力の提供
町民が紹介できる	集会所やコミセンの活用
町民が宣伝できる	想いのある役場の人たちとの協力
観光客に答えられる	町と住民の意思疎通強化
保田小クチコミ促進	行政と町民の一体化
観光客に聞かれても答えられる	観光事業起業

② 定住促進チーム

A 課題（問題点や弱み）を解決するために求められる取組	B 町にやってほしいこと	C 私たち（町民）ができること
全体		
	ある程度キツパリとした態度・方針を表に出す	
発信力		
発信の戦略の精度を高める	①より高度なターゲティング	町会単位等での暮らし良い環境整備
	②タッチポイントの整理	SNS、ブログ等による発信
	③訴求ポイントの整理	訴求力のあるコンテンツづくり
	上記①～③が整理できる仕組みづくり（外部有識者の協力）	
	発信技術の知見を高めることと実施すること	
交通		
車を持たない、運転しない人にとって交通手段が不便	労働人口増の施策：子育て、通勤、住居	交通関係会社などへ声を届ける
都心部への交通手段の不安定さ	社協事業での有償運送の対象拡大	地域コミュニティでの運用
インフラ整備（公共交通）	住みやすさのPR→労働人口増に限らない移住者向け（交通面）	今、自分が不自由なく運転できても、意識して公共交通を利用してあるものを存続させる
公共交通が脆弱	マイカー活用（相互扶助）・最低賃金制・ネットワーク構築	有償運送ドライバー
	デマンド再導入。但し、やり方変える（コスト）	特別急行列車の要望～利用
	タクシー補助	積極的な協力（マイカー保有者）・積極的な活用（利用者）
		積極的活用

A 課題（問題点や弱み）を解決するために求められる取組	B 町にやってほしいこと	C 私たち（町民）ができること
仕事		
創業支援の充実	他市町村からの関係者（経験者）誘致、紹介	町内経験者トークセッション、Youtube発信
創業・起業支援	鋸南100年ブランド（商品）の立ち上げ（ブランディング、資金調達方法の検討等）	地域の情報等の提供
創業支援の充実	創業支援	町民によるSNS、ブログ、口コミなどを活用した発信
産業（仕事）の活性化	販路拡大施策	事業者としての100年ブランド協力
仕事の少なさ	通勤補助	幹事（会社）の設定
	補助金、農地活用	
	技術支援	
	創業支援セミナー等	
まちづくり（ソフト）		
専門教育システム構築	まちづくり支援事業助成金の使用に関するルールを再考（カード払い×、3万以上のもの×とか）	町民としての意識改革
町内への関心度の低さ	まちづくり支援事業の募集期間を長くする、発表資料の作成の得意・不得意がある	土地の提供
まちづくりの町民への関わり度が低い？	情報公開	パブリックコメントに参加する
イベント等の存続問題	語学、数学、科学、専門スキル習得	自分が選んだこと、選んだもの、したこと、しなかったことが、「今」だと自覚する
	企業・大学との交流	行事への積極的参加
	パブリックコメントの告知を大きくやる	住民活動として何があるのか？知ろうとする
	町民といってもいろいろ。声の大きな人、パワーのある人の意見と、そうではない人の意見を、なるべく差がでないようにする意識	「まずは自分たちで何ができるか？」考える習慣
		行政依存に気づく

A 課題（問題点や弱み）を解決するために求められる取組	B 町にやってほしいこと	C 私たち（町民）ができること
まちづくり（ハード）、インフラ整備		
インフラ整備（河川）	耕作放棄地活用（ストックヤード）	住民による河川一斉清掃
インフラ整備、道路（県・町）	県に対して道路清掃委託方式導入交渉（実費弁償）	町民の積極的参画
	川の浚渫（しゅんせつ）、竹の伐採	
空き家		
現役世代の移住促進	空家情報・町営住宅	受入体制

A 観光チームの検討状況・発表



B 定住促進チームの検討状況・発表



全体写真

